

大山町議会議長 野口俊明様

大山町議会議員 大森正治



平成28年大山町議会議員研修報告書

1	日 時	平成28年8月17日(水)～19日(金)	
2	研 修 地	滋賀県 全国市町村国際文化研修所	
3	研 修 内 容	( 内 容 )	
		(1) 地方財政制度の基本 (講義)	
		(2) 自治体財政診断の考え方と手法 (講義)	
		(3) 地方財政のよくある質問 その1～3	
		(4) 財政健全化における伯耆町の取り組み	
4	研 修 結 果 又は概要 (意見・感想)	<p>テーマ「地方財政制度の基本と自治体財政」</p> <p>(1) 地方財政制度の基本 講師：小西砂千夫 (関西学院大学教授)</p> <p>政府支出に占める地方財政のウェイト 約5分3 (地方58%、国42%)</p> <p>地方財政の基本は<u>事務配分</u>…法律、政令で決まる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分離型</li> <li>・融合型 一国と地方が協力して行う事業。例：国保、介護</li> </ul> <p>地方財政計画…日本独特のもの←戦後、シャープ使節団による勧告 (日本へのプレゼントと言ってもよい)</p> <p>4 経費—投資的経費、一般行政経費、給与関係経費、交際費</p>	
		<p>(2) 自治体財政診断の考え方と手法 講師：今井太志 (北海道総合政策部)</p> <p>前提条件…すべての会計 (一般会計、特別会計) を連結してみることに 財政状況をみるために必要な数字…①貯金 (現金と各基金) ②借金 (地方債残高・ 債務負担行為の額・職員の退職金支払見込額)</p> <p>貯金や借金をどう見るか…他の市町村と比較する—財政指標で</p> <p>貯金；基金額比率 = 年度末の現金と基金 ÷ 標準財政規模 で</p> <p>借金；将来負担比率 = (年度末の借金額 - 基金額) ÷ 標準財政規模 で</p> <p>4つの財政指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①実質赤字比率</li> <li>②連結実質赤字比率</li> <li>③実質公債費比率</li> <li>④将来負担比率</li> </ul>	

4	調査結果 又は概要 (意見・ 感想)	<p>(3) 地方財政のよくある質問 講師：小西砂千夫</p> <p>①臨時財政対策債は本当に確実に償還できるか        使途制限がない（地方債は投資的経費しか使えない）        一般的に3年期限、延長可</p> <p>②公会計の活用方法とは</p> <p>③経常収支比率は80%が適当か        それ以上は硬直化が進んでいるか→言えない。90%でも大丈夫</p>
		<p>(4) 財政健全化における伯耆町の取り組み 鳥取県伯耆町長 森安 保</p> <p>○市町村財政のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村財政とは？→入りと出のバランス</li> <li>・何を持って不健全とするか→バランスが崩れた時</li> <li>・なぜ不健全になるか→先送りするから。先送りしないこと</li> <li>・不健全ではいけないのか→「名誉の赤字」（住民への行政サービス）もある</li> <li>・今後の人口減少とどうバランスさせるのか（とくに、人口減少化の負担の公平、公共料金等） 等々</li> </ul> <p>○実質公債費比率・将来負担比率・経常収支比率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要度は将来負担費＞経常収支＞実質公債費の順</li> <li>・将来負担は低いほど安心感が大。投資余力ありと判断</li> <li>・実質公債費は大事な指標ではあるが、過去のこと</li> </ul> <p>○基金残高の目安は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的に取り崩し型基金(財調+減債)で標準財政規模の20~30%と言われるが、一律の水準設定は難しい</li> </ul> <p>※将来の財政に備えてという理由づけしても、現在の低金利下では、定期預金してもお金が眠っていることになり、基金の増大は地方自治法や財政法に照らして批判につながる恐れがある。</p>
		<p>(5) まとめ</p> <p>森安町長の次の話は、印象深かった。</p> <p>◎基礎自治体の重要分野は①<u>住民福祉</u>②<u>義務教育</u>③<u>基礎インフラ</u>の三つ。財政悪化の例では、これら以上に地域振興的分野に過大投資をしている。</p> <p>身の丈に合った持続的な基礎自治体運営が、これからは一層重要である。</p> <p>財政健全化は、継続的な取り組みが必要であり、かつ、健全化の果実をいかに(住民に)還元できるかも重要である。</p> <p>また、小西教授の「ふりかえり」での次のことばも印象的だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経常収支比率は、今はあまり問題にされない。</li> <li>・財政判断は難しい。</li> </ul>